

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：17401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K20809

研究課題名(和文)連続体概念における発達障害児の多職種支援に向けた「気になる子ども」評価尺度の開発

研究課題名(英文)The multidisciplinary assessment scale of children of concern based on the spectrum concept

研究代表者

大河内 彩子(井出彩子)(Okochi, Ayako)

熊本大学・大学院生命科学研究部(保)・教授

研究者番号：70533074

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文): 専門職といえども気になる子どもへの気づきには差異があり、支援の必要性の判断基準をより明確にするため、小児歯科外来という母子にとって緊張感の高い場での評価・診療技術をもつ、小児歯科外来従事者のスクリーニング視点を明らかにすることを目的として、文献検討とフィールドワークを組み合わせる、ハイブリッド型の概念分析を実施した。

上記成果や研究者による保健師・保育士を対象とした研究成果を踏まえ、保健所保健師、市町村保健師、保育士、児童相談所職員を対象とした、質問紙調査により、多職種による気になる子ども評価尺度を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において小児歯科従事者の気になる子ども概念に着目し、発達障害や児童虐待の可能性に加えて、異様な泣きや歯科恐怖症の可能性についても気づきの視点として活用していることが明らかになった。他の専門職が共有することで、気になる子どもの評価において活用することができ、多職種における評価の相違を解消できると考えられた。

さらに、自記式質問紙調査により尺度開発を行い、気になる子どもを取り巻く多職種が利用可能な評価尺度を開発した。調査対象には保健師だけでなく、保育士や心理職等も含まれた。保健師が乳幼児健診で用いるだけでなく、保育園・幼稚園や児童相談所など多くの施設・職種で本尺度は利用可能である。

研究成果の概要(英文): Problems with care assessment regarding children of concern have been reported, because each professional perceives care assessment differently based on their experiences. This study firstly aims to explore pediatric dentist definitions of KK for effective collaborations, and secondly to conduct a nationwide survey to develop a questionnaire that enables multidisciplinary professionals to decide the need of further specialized care for children of concern.

I firstly conducted a hybrid concept analysis and secondly a nationwide survey. Collected data was analyzed qualitatively and quantitatively, respectively. KK was finally defined as children who require special care due to both individual and environmental health risk possibilities and observed dental symptoms. Moreover, a factor analysis showed that the developed scale contained four factors and 13 items.

研究分野：地域看護学

キーワード：発達障害 児童虐待 多職種連携 アセスメント 概念分析 尺度開発

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2013年米国精神医学会により Diagnostic and Stastical Manual of Mental Disorder ver.5 (DSM-5)が出され、自閉症状が連続的に(スペクトラムに)分布するという概念が導入された。特に、診断基準に合致はしないが、対人関係や生活習慣などにおいて自閉特性が垣間見え、親や教師が対応に苦慮している子どもに対する支援も明確に求められていると考えられる。

このような診断閾下であるが支援を必要とする子どもを保健・医療・福祉・教育の現場では、「気になる子ども」と呼称し、保育・教育分野を中心として評価尺度の開発が試みられてきた。既存尺度では発達障害をもつ子どもに類似する行動特性が把握されない場合には、実際には発達障害を持つ子どもであっても見逃されやすい等の課題がある。発達障害を持つ子どもの支援においては、早期把握システムの確立は全世界的な課題である。発達障害が未診断あるいは診断閾下であるために、支援の必要性が医学的には認められないものの、専門職が実践上フォローアップの必要性を認める子どもを評価する尺度を開発することで、発達障害を持つ子どもが支援の網の目から漏れ、二次障害や虐待に至る可能性を予防できると考えられた。

2. 研究の目的

地域保健システムの中で発達障害を持つ子どもに最初に出会い、支援ニーズの評価を行う保健師を中心に、「気になる子ども」を評価・支援する保健・医療・福祉の専門職を対象として、評価の質を査定し、改善していくために活用できる評価尺度を開発し、その信頼性・妥当性を検証することを目的とする。それによって、子ども支援における多職種連携を促進し、わが国の発達障害が見込まれる子どもに対する早期かつ適正な支援の実現を実現する。

3. 研究の方法

1)ハイブリッド型概念分析(質的研究)と2)自記式質問紙調査(量的研究)からなる。

1)ハイブリッド型概念分析

A大学歯学部附属病院小児歯科外来での参与観察と、「気になる子ども」の気になる点・特徴・タイミング・理由を聴取する個別面接を小児歯科外来従事者27名(歯科医21名、歯科衛生士5名、クラーク1名;男性7名、女性20名;平均経験年数12.5年)に実施し、グラウンデッドセオリー法により分析した。本研究は横浜市立大学およびA大学の倫理審査委員会の承認を得た(承認番号A130926022;1303)。

2)自記式質問紙調査

支援を必要とする子どもを広範囲にスクリーニングするための「気になる子ども」評価尺度暫定版を文献レビュー、研究者が保健師・保育士・小児歯科外来従事者に対して実施したハイブリッド概念分析結果を活用して作成する。保育士を対象として開発された既存尺度や研究者のこれまでの成果や、発達障害児のスクリーニングに関する文献等から、最新の知見を検討し、「暫定版気になる子ども評価尺度」を作成する。

次に、暫定版尺度に対するエキスパートからの意見を収集し、修正版尺度を開発する。作成した暫定版評価尺度項目について、エキスパートへのインタビューから改善点を検討する。A市において、保健センター・病院・保育所・幼稚園等のフィールドに所属する専門職に、暫定版評価尺度の内容の過不足や妥当性に関する意見を聴取し、その結果を踏まえ、「修正版気になる子ども評価尺度」を作成する。

さらに、修正版評価尺度を用いた自記式質問紙調査を全国規模で実施し、尺度の信頼性・妥当性を検証する。修正版評価尺度を用いて、協力自治体の保健・医療・福祉職を対象とした調査を実施する。探索的因子分析・確証的因子分析を行い、各因子および「気になる子ども」評価尺度全体の信頼性・妥当性を検討し、尺度を完成させる。

熊本大学医学部倫理委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

1) ハイブリッド型概念分析

発達障害や児童虐待の可能性に加えて、歯科恐怖症の可能性や理由のわからない異様な泣き方や多発性重度齲蝕の存在やメンタル的な課題の可能性などが語られた。カテゴリを表1に示す。

コアカテゴリ	カテゴリ	サブカテゴリ
子どもにおける発達障害の可能性	自閉的な特性や多動性や衝動性の有無	子どもにおける、奇異な言語的・非言語的コミュニケーション
		子どもにおける、奇異な泣き声や泣き方
	幅を持たせた発達障害の可能性	子どもにおける、年齢相応の発達基準から逸脱する衝動性・多動性
		子どもにおける、知的障害を含む発達障害の可能性
子どもにおける発達障害以外の可能性	障害だけでは説明できない、子どもが示すグレーな要素	子どもにおける、障害では説明できない奇異なコミュニケーションや行動
		子どもにおける、多様な要因の可能性(体調・気分・個性・メンタル面)
	歯科恐怖症の可能性	子どもにおける、最近の子ども像の変化
親による不適切養育の可能性	親から必要な養育を十分に受けていない可能性	子どもにおける、歯科治療に対する心身の拒絶反応
		子どもにおける、発達障害は否定できる反応
		子どもにおける、不衛生な状態
	背景としての家庭環境の難しさ	子どもにおける、通常ではありえない多発性重度齲蝕
		子どもにおける、食事や学校の準備に対する親の関与のなさ
		子どもにおける、偏った食事内容
	家庭環境からの負の影響	親における、子どもへの関心の乏しさ
親における、子どもへの過剰な反応		
子どもにおける、複雑な家庭環境の存在		
		子どもにおける、他者を気にしすぎる態度
		子どもにおける、表情や顔色や反応の乏しさ
		子どもにおける、男性への恐怖や嫌悪感

2) 自記式質問紙調査

本調査の対象は、5大都市圏を構成する北海道・東京都・神奈川県・愛知県・大阪府・兵庫県・福岡県内の保健所および保健センター（全数 346 施設）、児童相談所（75 施設）、保育園（104 施設）の母子保健担当者とした。上記の対象施設に送付し、193 人から回答を得た。

本調査における、気になる子どもの性別は男児が 115 名、女児が 66 名であり、最初に気になると思ったときの年齢は 2 歳 10 か月（0 歳 16 歳 2 か月）であった。気になる子どもと出会った場合は、家庭訪問、転入時の引継ぎ、1 歳 6 か月児健診、保育所、市町村保健センター、などが多かった。子どもの背景では発達障害（診断あり 27 名、診断なし 35 名）や知的障害等の子どもの因子に加えて、親や養育者の育児困難・貧困・孤立等の環境因子も多く該当した。子どもへの支援は育児支援や教室から福祉的な支援まで幅広く提供されており、多機関・職種連携が見られた。保育・教育施設との連携による児への支援は奏功しているが、保護者との関わりが課題として考えられていた。

因子分析の結果、10 項目 3 因子からなる気になる子ども評価尺度が完成した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 大河内彩子, 松永信智, 野村恵子	4. 巻 16
2. 論文標題 発達障害児・者の困り感の見える化を促進するための身体感覚の評価に関する文献レビュー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 熊本大学医学部保健学科紀要	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大河内彩子, 田高悦子	4. 巻 11 (1)
2. 論文標題 スペクトラム概念の境界理解に向けた自閉的特性のスクリーニングに関する文献検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 横浜看護学雑誌	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横堀花佳, 大河内彩子, 田高悦子, 伊藤絵梨子, 有本梓, 白谷佳恵	4. 巻 21 (1)
2. 論文標題 保育所看護師が行う発達上の課題がある子どもと養育者への支援	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本地域看護学会誌	6. 最初と最後の頁 56-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okochi A. and Tadaka E.	4. 巻 16
2. 論文標題 A hybrid concept analysis of children of concern: Japanese healthcare professionals' views of children at a high risk of developmental disability.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 BMC Pediatrics	6. 最初と最後の頁 171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12887-016-0715-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 椛島優莉、大河内彩子、田高悦子、有本梓、白谷佳恵、伊藤絵梨子、臺有桂	4. 巻 72(6)
2. 論文標題 未就学児の母親が認知する子育て支援内容と評価に関する質的研究	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木理恵、大河内彩子、田高悦子、有本梓、伊藤絵梨子、白谷佳恵、臺有桂	4. 巻 19(3)
2. 論文標題 「親なき後」に向けた知的障がい者の生活場所を決断する渦中にある高齢期の母親の思い	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本地域看護学会誌	6. 最初と最後の頁 41-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松井藍子、大河内彩子、田高悦子、有本梓、白谷佳恵	4. 巻 19(2)
2. 論文標題 発達障害児を持つ親の会に属する母親が子育てにおける前向きな感情を獲得する過程	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本地域看護学会誌	6. 最初と最後の頁 75-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件(うち招待講演 0件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 藤村一美、大河内彩子
2. 発表標題 乳幼児期の子どもを持つ母親の育児におけるマルトリートメントに至る体験と認識 -インタビュー 内容の分析より-
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本(小市)理恵子、大河内彩子
2. 発表標題 支援者が「気になる保護者」の特徴と 支援のあり方に関する文献検討
3. 学会等名 第8回日本公衆衛生看護学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大河内彩子,橋本(小市)理恵子,藤村一美,金森弓枝,喜田昌子
2. 発表標題 児童虐待予防に向けた「気になる親」への支援プログラム開発のための基礎的研究
3. 学会等名 第8回日本公衆衛生看護学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大河内彩子、船山ひろみ、藤村一美、朝田芳信
2. 発表標題 乳幼児健診での事後支援の明確化に向けた自閉症の特性のスクリーニング基準の検討
3. 学会等名 日本公衆衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大河内彩子
2. 発表標題 「気になる子ども」を地域で見守る子ども・青少年健全育成プログラムの開発
3. 学会等名 日本公衆衛生看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大河内彩子、田高悦子
2. 発表標題 「気になる子ども」の多職種による早期支援に向けたスクリーニング項目の検討
3. 学会等名 公衆衛生看護学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Okochi A, Tadaka E
2. 発表標題 The definition of children at a risk of developmental disabilities in Japan from the integrated analysis
3. 学会等名 The3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大河内彩子、田高悦子、船山ひろみ
2. 発表標題 気になる子どもに対する小児歯科外来従事者の対応にみる支援技術について
3. 学会等名 第63回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大河内彩子、田高悦子
2. 発表標題 小児歯科外来従事者の認識する、「気になる子ども」支援における連携上の課題
3. 学会等名 日本地域看護学会第19回学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大河内彩子, 田高悦子, 船山ひろみ, 朝田芳信
2. 発表標題 地域連携へ向けた小児歯科外来従事者の「気になる子ども」スクリーニング視点の解明
3. 学会等名 第75回日本公衆衛生学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大河内彩子, 田高悦子
2. 発表標題 小児歯科外来における「気になる母親」のハイブリッド概念分析 - 「気になる子ども」への多職種連携に向けて
3. 学会等名 第35回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Okochi A, Tadaka E.
2. 発表標題 Literature review of children of concern (kininaru-kodomo: KK) in Japan: the theoretical phase of a hybrid concept analysis
3. 学会等名 6th ICCHNR Community Nursing Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Okochi A, Tadaka E.
2. 発表標題 The meaning of children of concern (kininaru-kodomo: KK) in Japan: fieldwork findings at community health centers and day-care centers
3. 学会等名 6th ICCHNR Community Nursing Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 大河内彩子, 田高悦子
2. 発表標題 「気になる子ども」のハイブリッドモデルによる概念分析 保健師・保育士の視点から
3. 学会等名 第18回日本地域看護学会学術集会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 大河内彩子, 田高悦子, 船山ひろみ, 朝田芳信
2. 発表標題 多職種協働に向けた「気になる子ども」評価尺度の開発：小児歯科研究プロトコル
3. 学会等名 第74回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Ayako Okochi, Hiromi Funayama, Yoshinobu Asada
2. 発表標題 Pediatric dentist perspectives regarding children of concern (kininaru-kodomo: KK) in Japan: findings from hybrid concept analysis
3. 学会等名 18th International Congress of European Society for Children and Adolescent Psychiatry (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----